

科目名： 保育実習指導 I (演習2単位・1年次より)	担当教員名：石塚 智美	使用テキスト：出版社名・テキスト名 わかば社：幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド・施設実習パーフェクトガイド
保育実習指導 II (演習1単位)	担当形態： 単独	

授業到達目標及びテーマ：

- ・教育実習の心構えについて十分な認識をしながら実習に臨めるようにする。
- ・施設実習の基本的な理解を深めながら、実習日誌の書き方や実習生の心構えについて理解する。
- ・保育所の理念や目的・特徴について知り、保育所実習の意義・目的を理解する。また、保育所実習の内容を理解しながら自己の課題を明確化できるようにする。
- ・保育現場で求められる保育士としての意識を高め、身だしなみやマナー、生活技術、保育士としての基本を身に付ける。
- ・各実習施設における子どものプライバシーの保護と守秘義務について理解する。
- ・実習に向けての計画、実践、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。

授業の概要：

- ・教育実習の心構えや事後指導について理解できるよう実習前には十分な時間を配分する。
- ・施設実習での基本的な理解を深め実習ノートの書き方や事前指導や事後指導について理解できるような授業を展開する。
- ・保育所実習の意義や実習内容、実習の心構えを理解しながら、指導案の立案や実習日誌の書き方について理解が深められるような授業の展開をする。

回	項 目	内 容
1	自己紹介の練習	自己紹介の発表を通して自分の課題を知り、より良い自己紹介の作品を完成する。
2	責任実習や部分実習にあたってのポイント	保育教材の研究や活動に必要な用具、材料の確認をする。また、実習日誌の書き方について詳しく学ぶ。
3	指導案立案の添削	担当クラスが決まっている学生に対しての立案添削をし一緒に考える。また、まだ決まっていない学生の指導案準備について明確にする。
4	指導案立案の添削及び実習に向けての心構えの再確認	実習に向けての最終的な再確認をし、準備の確認をしながら実習での健康面・生活面について理解する。
5	事後指導	教育実習に対しての振り返りや学び・その活かし方について確認する。また、今後の課題を確認する。
6	施設実習の基本的な理解	保育実習 I における施設実習の意味を理解し、施設における保育士の職務内容について学ぶ。 児童福祉施設と社会福祉施設の知識を身につけながら実習への思いを深める。
7	模擬授業を通して実習日誌の作成	実習日誌の書き方や書く内容について具体的に学ぶ。また、振り返りを促すための質問についても模擬授業を通して学ぶ。
8	模擬授業を通して障害者支援施設における利用者への対応	食事介助、入浴介助、トイレ介助などについて、指導をあおぎながら実際に実演したりすることによって理解を深める。

9	保育所の役割と意義及び機能についてまた、事前指導	保育実習ⅠとⅡの違いを知る。保育所の理念、目的、役割、意義、機能について学ぶ。また、保育所の一日の流れや内容について理解する。
10	保育所実習の計画と記録及び課題の明確化	保育の一部分を担当する指導計画を立案する。また、一日実習の指導案を立案する。これらを通して、自己の課題を明確化する。
11	指導計画の立案及びグループでの模擬授業	実際に実践しながら、指導案の立案に対して検討する。
12	実習に際しての留意事項再確認	子どもの人権やプライバシーの保護と守秘義務についてまた、子どもとの関わる時の基本、遊びでの子どもとの関わり方について理解を深める。更に実習生の心構えについての再確認をする。
13	子どもの最善の利益への配慮	子どもの最善の利益についての配慮を理解し、保育士の援助の方法やその役割を学ぶ。また、児童虐待への防止についての対応を学ぶ。
14	保育士としての職業倫理について	守秘義務の遵守について、事例をあげながら実際に理解する。 保育士の具体的な職業倫理について理解する。
15	事後指導と自己の課題の明確化	保育所実習に対しての振り返りや学び・その活かし方について確認する。また、今後の課題を確認し、課題を実現させていく具体的方法を考える。
16	レポートの作成	実習を通して学んだことや感じたこと、また、今後の課題等をレポートにまとめる。

参考書・参考資料等：

幼稚園・保育所実習の指導計画はこうして立てよう、実習保育学、保育者の常識67、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>

学生に対する評価方法：

期末試験、提出物、実習記録、授業態度等総合的に評価する。

【石塚智美】

泉川保育園 元保育士